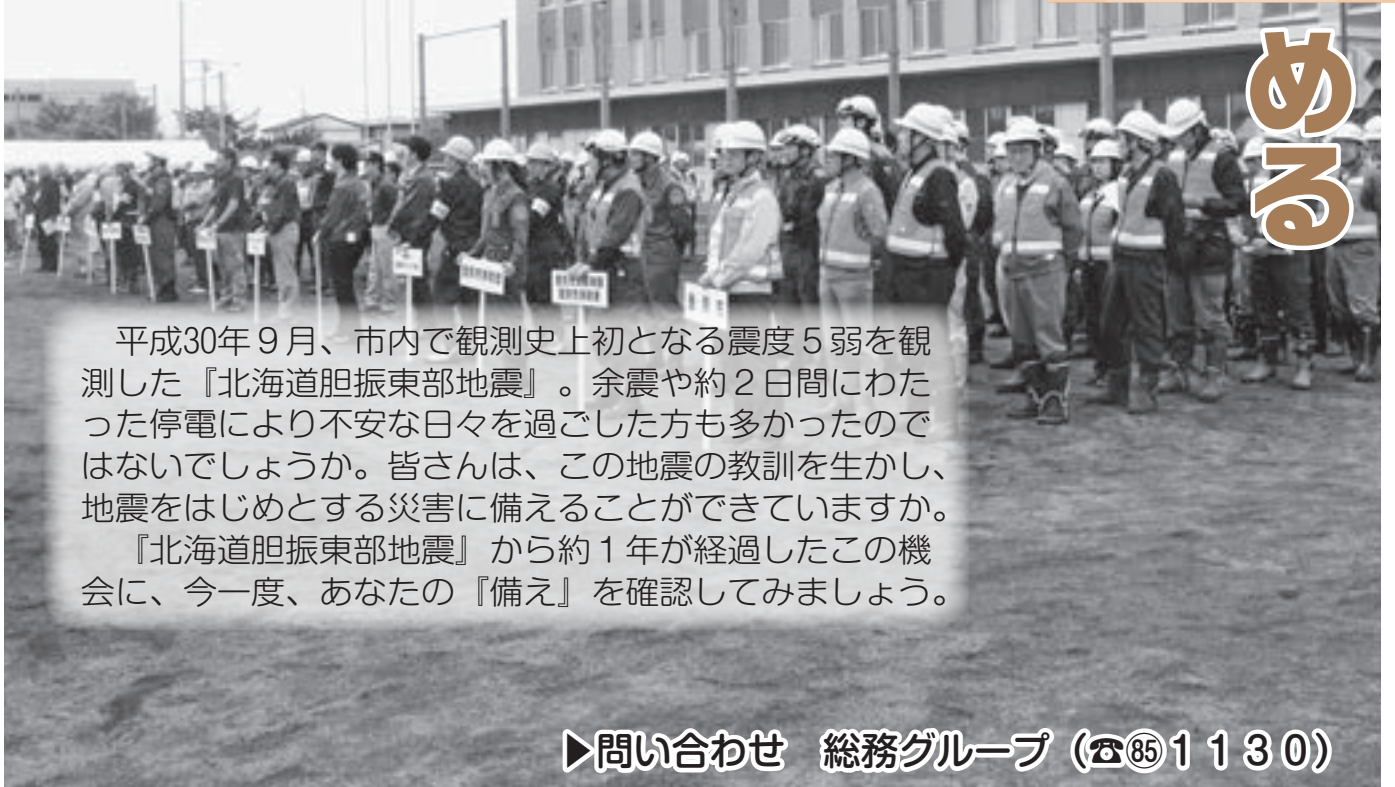


# 防災力を高める

める



平成30年9月、市内で観測史上初となる震度5弱を観測した『北海道胆振東部地震』。余震や約2日間にわたった停電により不安な日々を過ごした方も多かったのではないのでしょうか。皆さんは、この地震の教訓を生かし、地震をはじめとする災害に備えることができますか。『北海道胆振東部地震』から約1年が経過したこの機会に、今一度、あなたの『備え』を確認してみましょう。

▶問い合わせ 総務グループ (☎051130)

## 蓄えて 備える



大規模な災害は、あなたの生活を大きく変えます。家屋の損壊などによって、住み慣れた家での生活ができなくなり、避難生活を余儀なくされる可能性があります。また、物流が滞り、普段何気なく購入している日用品や食糧品が手に入らなくなったり、電気やガス、水道などのライフラインが停止することもあります。

北海道胆振東部地震の発生直後、市内のスーパーマーケットやコンビニエンスストアには、停電などによる不安から、食糧品や飲料水、カセットボンベなどを買い求める多くの人の姿がありました。

しかし、この不安は、地震が起きる前に、食糧品や日用品を多めに備えておくことで、軽減できたのではないのでしょうか。実際に、地震を教訓に、備蓄品の内容や量などを見直した方もいるかもしれません。

日頃から、災害復旧までの数日間を自足できるよう、自宅に備蓄しておくことが大切です。

## 備蓄品は最低でも3日間分

災害は突然やってきます。

いつ起きるか分からない災害に備えて、各家庭で最低でも3日間分、可能であれば1週間分の備蓄を心掛け、日頃から準備しておきましょう。

市は、平成25年に定めた登別市備蓄整備方針に基づき、災害時に備えて、計画的に備蓄品を購入しています。

市役所本庁舎や婦人センター、しんた21など、市内15カ所に約2万食分の分散備蓄を行っており、食物アレルギーに対応した食糧品も準備していますが、各避難所に配分できる量が限られるほか、各戸への配布、長期間の対応などは困難です。

各家庭で、家族全員分の食糧品などを確保しておくことが、自分や家族の身を守ることにつながりますので、日頃から備蓄への取り組みをお願いします。

## 備蓄するものはそれぞれ

備蓄といっても、具体的に何を留意すれば良いのでしょうか。食糧品や飲料水、防寒具、衛生